

防衛省次世代情報通信戦略について

令和7年10月
防 衛 省

「防衛省次世代情報通信戦略」策定の趣旨

- ◆ ゲーム・チェンジャーとしての先端技術と、先進的な技術に裏付けられた新しい戦い方の登場
- ◆ 技術の進展と情報通信分野の基盤的な重要性
 - 情報通信分野における**技術の進展やAIの登場**に伴い、情報通信技術の利活用が活発化。
リアルタイムの大容量通信が可能なネットワークの構築や、高度なデータ処理・分析が可能
 - 平素から、災害発生時や有事に至るまで、国民生活にとっても、自衛隊の活動にとっても、
情報通信インフラは全ての基盤。この分野における**技術的な優位性及び自律性の確保**が我が国にとって死活的に重要
- ◆ 防衛省・自衛隊による技術の積極活用の必要性
 - 急速に進展する**次世代情報通信技術**を取り込むことが防衛力抜本的強化の実現に不可欠
 - 組織のスケールを活かし、防衛省・自衛隊が**次世代情報通信技術**を積極的に活用。民間技術の研究開発や社会実装を後押しし、**防衛力強化と経済力強化の好循環を実現**

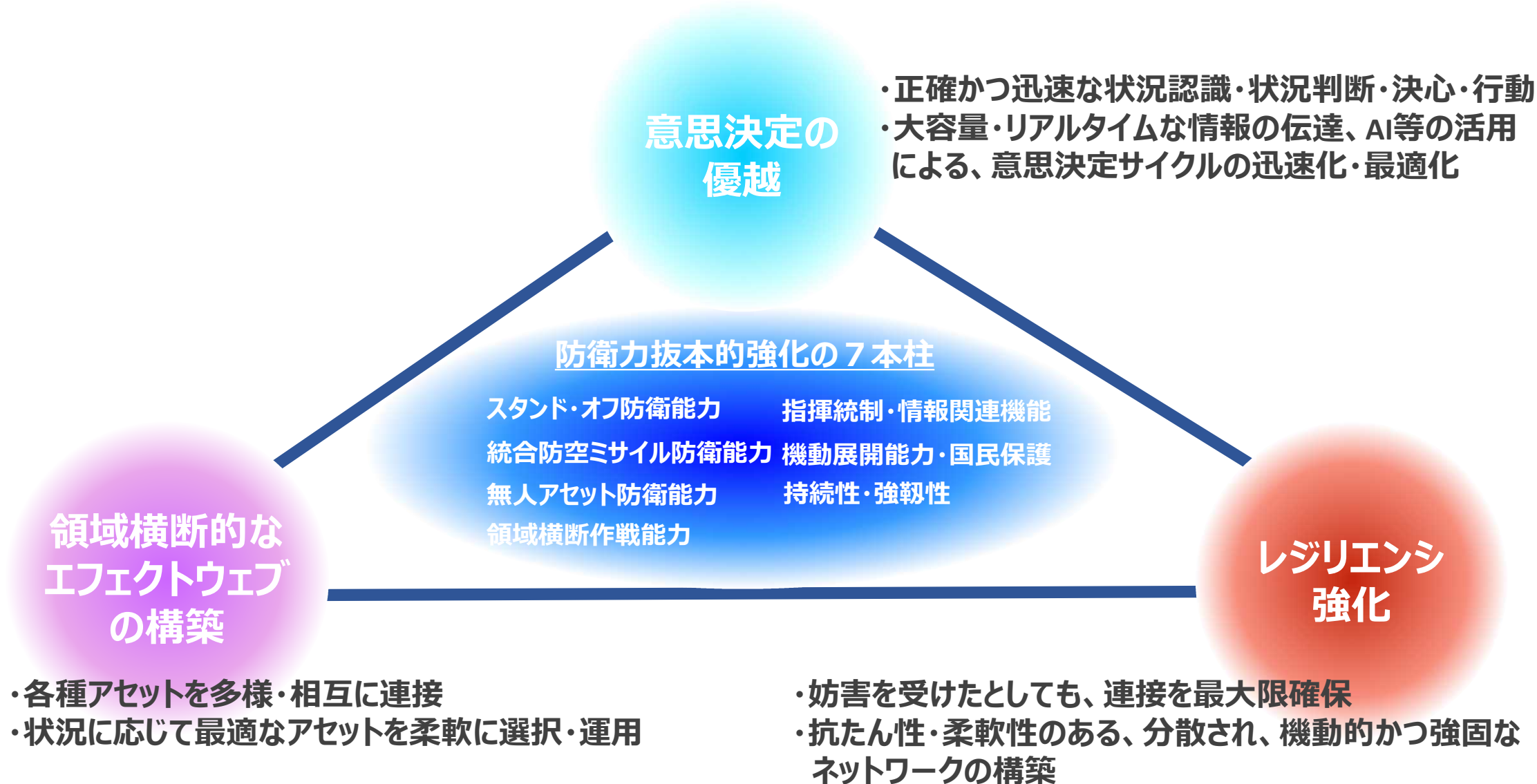
防衛省次世代情報通信戦略を策定し、

①方針の一貫性の確保と部内横断的な検討を促進

②防衛省の考え方を明らかにし、民間技術の早期取り込み・開発促進を推進し、外部との連携を深化

次世代情報通信技術活用アプローチ

- ◆ 国家防衛戦略で示された7つの機能・能力の強化には、進展する次世代情報通信技術の取り込みが鍵
- ◆ 次世代情報通信技術活用アプローチは以下のとおり



全ての取組の基盤となる情報通信プラットフォームの構築

- ◆ 意思決定の優越・領域横断的なエフェクトウェブ・レジリエンスの強化の全てのアプローチを実現し、「7本柱」を強化・発揮するための**基盤的プラットフォームとしての次世代の通信インフラが必要**

現行の防衛情報通信基盤（DII）やシステム等の問題点

- ◆ ネットワークとシステムが必ずしも統合して計画・整備されていない。
 - ⇒ データ処理増大など、運用ニーズの変化に応じた**効率的な情報通信リソースの割り当てが困難**
- ◆ 各自衛隊等の作戦ニーズに沿って**サイロ化されたシステム・アセットの構築・運用**
 - ⇒ **組織横断的なデータ運用・状況把握等に制約**

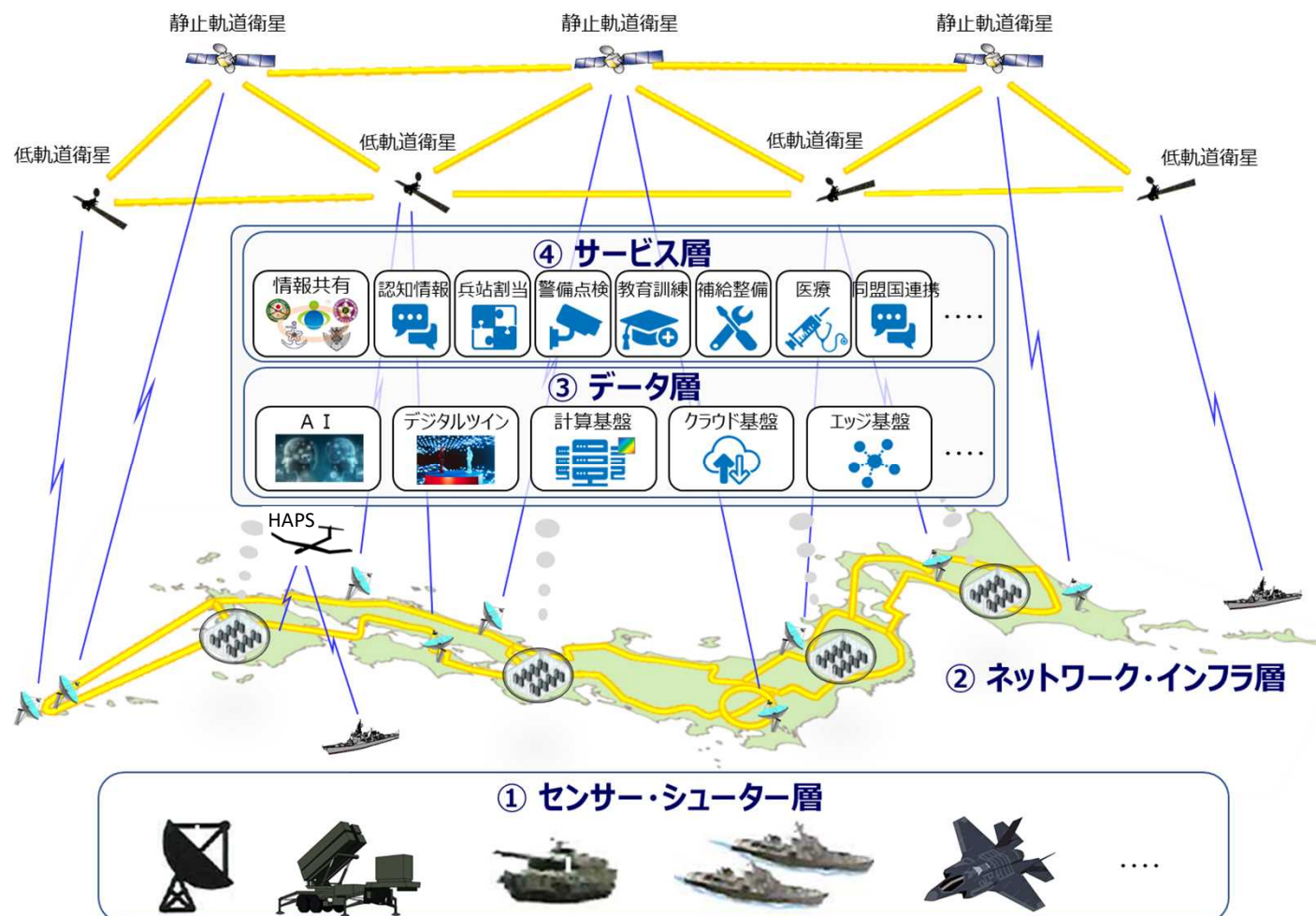
基盤的なプラットフォームとしての新たな防衛情報通信基盤（仮称）を整備

- ネットワークとシステムを、**統一的な構想の下で構築**
- 各種作戦に**必要となる機能を基盤的プラットフォーム上のサービスとして柔軟に整備**
- **物理的な分散配置**を行い、いかなる状況下でも**全ての機能喪失を回避する冗長性を確保**
- **各種データを組織横断的に運用**
- 作戦上の要求を適時適切に反映するため、**アジャイル型の開発形式を追求**
- ゼロトラスト概念や次世代暗号通信技術などの活用など、**堅牢かつ柔軟なセキュリティを確保**

新たな防衛情報通信基盤(仮称)のアーキテクチャ

- ◆ ①センサー・シューター層、②ネットワーク・インフラ層、③データ層、④サービス層により構成
- ◆ 各種アセットにより収集したデータを有機的に利活用
- ◆ 変化する戦闘様相や技術の進展に対応。各種作戦に必要な機能を柔軟にサービスとして整備

【アーキテクチャのイメージ】



【センサー・シューター層】

- 高精度高価＋大量安価なアセットを保有、組合わせて継戦能力を維持

【ネットワーク・インフラ層】

- 高速・大容量・低遅延の通信
- マルチネットワーク化

【データ層】

- 迅速・適切に利用可能とするために整理・統合して最適化

【サービス層】

- 柔軟な開発・変更・追加・削除を可能とする環境を構築

施策を下支えする総合的な取組

- ◆ 防衛情報通信基盤や各種アセットにおけるシステム・ネットワーク面におけるコンセプトだけでなく、こうした**取組を下支えする施策をパッケージとして打ち出し、省として総合的な態勢整備を行う必要**
- ◆ 特に、①人材、②官民連携、③同志国・同盟国との連携において取組を強化

人材の確保

- ◆ データ・アナリスト、データ・サイエンティスト等の専門人材を適切に確保・育成
- ◆ 既存の採用の枠組みを柔軟に活用、部外の人材や意欲ある人材の新規採用を推進

技術導入・開発促進に向けた官民連携強化

- ◆ 防衛産業等の情報通信ネットワークのサプライチェーン強靱化、自律性向上への取り組み
- ◆ 巨大組織としてのスケールや省人化・無人化のニーズを活かし、いち早く最先端民生技術を活用
- ◆ 社会実装や国際標準化までの期間短縮や投資回転率の向上を通じ、国際競争力と防衛力を強化

同盟国・同志国との連携

- ◆ 技術的な変化の著しい情報通信分野において最新の技術動向等にキャッチアップ
- ◆ 同盟国・同志国との更なる相互運用性の深化を視野にネットワーク・インフラを構築

防衛省次世代情報戦略の実現に向けて

- ◆ 急速に変化する情報通信分野の特性を踏まえ、将来の戦闘様相を見据えた上で、求められる**防衛省・自衛隊の次世代情報通信の在り方を不断に検討**
- ◆ 情報通信分野における技術革新のスピードを踏まえ、**実現可能な取組から着実に実施**
 - ✓ まずは、防衛省クラウドについて、**新たな防衛情報通信基盤（仮称）の構築を見据えた柔軟性・発展性を確保**した整備を推進
 - ✓ 将来的に、現状のオンプレミス型を主体としたインフラ整備を脱却し、**ハイブリッド・クラウドへの移行を進める**
- ◆ 本「戦略」にとって極めて重要な技術分野には、**防衛省としても技術開発促進に能動的に関与し早期実装を推進**
- ◆ 取組の検討・実施に際しては、事業効率化とコスト低減などの**最適化に努める**

（右図）基盤的なプラットフォームとしての
防衛省クラウドのイメージ

